港区立御成門中学校

平成２９年度　授業改善推進プラン

◎関係法規
◎教育基本法
◎都・区教育目標等

教育目標
・豊かな心とたくましい体をもつ生徒を育てる
・他人の立場を尊重し仲良く協力できる生徒を育てる
・自ら計画し進んで学習する生徒を育てる

◎学校、地域の実態
◎保護者や地域の願い
◎期待される生徒像

学校経営方針（学力向上に関わる要点）

○言語活動の充実と授業改善　(1)基礎的・基本的な知識・技能の習得　(2)思考力・表現力・表現力等の育成
(3)個に応じた授業の展開　(3)課外における学習時間の確保　(4)読書活動の充実

①全教育活動における言語活動の推進　②各種検定、作文、絵画コンクールへの積極的参加
③物語文や漢文、百人一首・俳句等の古典文学の暗唱の推進　④生徒による自己評価・授業評価
⑤数学・理科・英語における少人数集団を活かした指導　⑥各種補習教室の開催と宿題を中核にした家庭学習の推進
⑦ﾘｰﾃﾞｨﾝｸﾞｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰｽﾀｯﾌと連携した読書活動　⑧アクティブラーニングの視点から不断の授業改善

各教科の指導の重点を確実に生徒に身につけさせるため次の取組を行います

道徳教育の指導の重点

・人権尊重・生命尊重の精神に基づき、誰にでも公正・公平に接しようとする心情を育み社会との関わりを踏まえ正義感に基づく確かな判断力や寛容な態度を、「特別な教科（道徳）」を要とし学校の教育活動全体で育成する

・道徳の授業ではA-(3)自分のよさを伸ばす」「B-(6)多くの人に感謝する」を重点化し、教科等における体験活動を生かした学習を通して、共感する心情や道徳的実践意欲と態度を育てる

・道徳授業地区公開講座などの活動を推進し、保護者・地域住民と連携して生徒の社会性を育てる

総合的な学習の時間の重点

・自ら課題を見付け、考え、そして主体的に解決できる能力を育成するため、３年間を見通した指導を計画的に実施する

・学び方やものの考え方を身に付けさせ、将来に渡り学習していこうとする意欲と態度を育てる

・上級生が下級生にガイダンスや研究発表をすることで、自主性を高め、学び合う力を身に付けさせる

国語	関心・意欲を高め授業に取り組めるように、ペア学習やグループ学習などのアクティブラーニングを効果的に取り入れる。 基礎基本の定着をさせるために、漢字・文法の小テストを繰り返し行い、合格ラインに達さない者に補習などを行う。また、教科書外の様々な文章に意図的に触れさせ、読み比べ等を行い情報を比較して読む姿勢を身に着けさせる。 さらに、漢字検定をきっかけに学習意欲の向上を図る。
社会	興味関心をもって課題に取り組めるように、ＩＣＴ機器の活用や学習形態（一斉・個人・グループ等）・学習活動を工夫し、基礎・基本を確実に定着させた上で、資料活用能力や思考・判断・表現力を伸長できるようにする。また、社会的事象を多面的・多角的にとらえるために、言語活動の充実を図るとともに時事問題も意図的に扱う。
数学	習熟度別少人数授業の形態を生かし、生徒の学習意欲を高める工夫を数多く取り入れながら、基礎・基本や発展的な力の育成に努める。また、思考力を高めるために問題解決型の課題に数多く取り組ませ、個人やグループで考える機会を意図的・計画的に増やし、筋道立てて論理的に発表するなど、言語活動の充実を図る。さらに、数学検定を年２回校内で実施し、学習意欲の向上を図る。
理科	少人数授業の利点を生かし、観察・実験にすべての生徒が主体的に取り組む授業環境をつくり、観察・実験技術の習得を目指す。また結果を読み取り、自ら考察を導き出すために、発問を工夫し、理論的に考える場面を意図的に増やし思考力・応用力の向上を図る。ICT機器を活用し、生徒の興味関心を高め、基礎学力の定着につなげる。
音楽	幅広い音楽活動に興味・関心がもてるよう、主体的な活動を中心に行う。音楽活動の基礎基本となる表現力を身に着けさせるために、自分の思いを伝えたり、お互いに話し合ったりなどの言語活動を取り入れる。歌唱や器楽の苦手な生徒には、個別の指導を行い、苦手意識をもたせないよう工夫をする。
美術	ＩＣＴ機器の利用や、生徒にとって身近なデザイン・美術作品を紹介するなど興味関心をもって題材に取り組めるよう学習形態を工夫する。また、表現力の向上を図るために言語活動を多く取り入れ、表現に対する考えを深める。完成に向けて見通しをもって制作ができるよう、ワークシートを利用や必要な生徒には個別の指導を行うなどする。
保健体育	基本的な集団規律を高め、授業を円滑に進めて主運動の時間確保を図り、持久力の向上を目指す。主に高まる体力を学習させたり、トップ選手の記録や映像を示したりして、どの領域の運動に対しても興味関心を高めていく。自分やグループの課題を発見させたり、課題に対する練習を工夫させたりして、思考力・判断力を向上させていく。
技術	基本的な技能の繰り返しによって、完成度の高い作品の制作経験から作品作りに向けた意欲は大変高まってきている。反面、基礎的な知識や工具使用、製作の知識などには、まだ興味・関心が薄い面がある。学習全体としてはものづくりを重点的にした授業体験から、生徒の興味・関心等を高め、工具や工作機械を安全で適切に使用できる等の技能を習得させ、自らの生活を工夫・改善していく意欲を向上させたい。
家庭	苦手意識の高い分野では、自信をもって取り組めるように繰り返しの学習によって技術を身につけさせる。 実践的な内容を多く取り入れることによって、家庭生活を工夫し、改善していこうとする意欲を向上させる。
英語	① スペリングテスト（長期休業明け）：語彙力を伸長する。 ② インタビューテスト（学期ごと）：ＮＴとの会話を通し、表現力、話す力を伸ばすとともに、既習事項を定着させる。 ③ 評価プリント（単元ごと）：既習の単語や文法の確認をすることにより、語彙力や理解力をつける。 ④ 暗唱テスト（ページごと）：まとまりのある会話文を繰り返し読むことにより、読解力をつける。

生活指導の重点

・生徒に基本的な生活習慣を身につけさせ学校のルールに基づき規律ある生活を送ろうとする規範意識を育成する

・一人一人の生徒理解に努め、よさを認め、励ます一方、生徒の悩みに対応できるように教育相談機能を充実させる。SCとの連携を強化

・不登校の問題に対しては、スクールカウンセラーや適応指導教室などと連携して組織的に対応する

・不審者侵入避難訓練や防災訓練など外部の専門機関と連携した体験的・系統的な安全教育及び防災教育を通して、生徒の危機管理能力を育成する

・SNSの使い方を含め、ネット犯罪に対しセーフティ教室などを通して被害の未然防止に努めるとともに情報モラルを身に付けさせる

・地域行事やＰＴＡ行事などのボランティア活動に積極的に参加させ、地域ぐるみで生徒の健全育成にあたる体制づくりを推進する

進路指導の重点

・３年間を見通した計画のもとに、自己理解を深め、キャリアについて考え、主体的に進路を選択する能力と態度を育て、生涯を通じて学び続ける意欲を培う

・職業調べや職場体験などを実施することにより、実体験を通し、自己の職業観やキャリアについて考えさせる

本校の授業改善に向けた視点

教育課程編成上の工夫	指導方法・指導体制の工夫	評価活動の工夫	校内における研究や研修の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
○週時数30.5コマの実施（第1･第3土曜日の授業実施） ○朝読書の全校実施 ○道徳授業の確保 ○３日間の職場体験実施 ○食育に関する指導を実施	○数、理、英での少人数授業の実施 ○英検・漢検・数検の校内実施 ○生徒による授業意識調査 ○考査前、長期休業中の補充教室の実施（全学年）	○学年ごとの評価評定法冊子の作成と配布 ○評価評定保護者全体説明会の実施 ○定期的な教科部会の実施 ○学力調査結果の分析	○特別支援教育の推進 ○個別指導計画の作成 ○学習支援員との連携 ○ＩＣＴを取り入れた研究授業の実施 ○ｵﾘﾝﾋﾟｯｸ、ﾊﾟﾗﾘﾝﾋﾟｯｸ教育推進校、言語能力向上拠点校、御成門ｱｶﾃﾞﾐｰ	○保護者と連携して農業体験や身近な街のコンサートを実施 ○平和まつり、みなとキャンプ村の参加、協力 ○外部ダンス指導員によるダンス授業の実施 ○奉仕的な活動の推進